

平成 14 年 度

新潟県放射線監視センター年報

第 1 卷

平成 15 年 12 月

新潟県放射線監視センター

は　じ　め　に

当センターでは平成14年度から新潟県放射線監視センター年報を発刊することとなり、この度その第1報として業務報告及び研究報告等の関係資料を取りまとめましたので、ここにお届けをいたします。

当県の柏崎市及び刈羽村地域におきましては、東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所が立地しており、昭和60年9月から同発電所1号機が運転を開始して以来18年間の月日を経過しました。現在では、1号機から7号機までの総発電出力が計821.2万kWと世界最大の原子力発電所となっております。

当県といたしましては、原子力防災対策等に対する強化の一環として、平成12～13年度において建設費11億3千5百万円をかけ、原子力防災センター(緊急事態応急対策拠点施設、オフサイトセンター)の建設に合わせて、オフサイトセンター内に柏崎刈羽放射線監視センターを一体的に整備いたしました。

また、環境放射線監視体制の充実強化を図ることを目的として、平成14年4月に組織改正を行い、保健環境科学研究所放射能科を本所機能を持つ新潟県放射線監視センターに改組し、柏崎刈羽放射線監視センターはその現地機関としての役割を担うこととなりました。

さて、御承知のとおり、平成14年8月経済産業省原子力安全・保安院により「東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所の自主点検作業におけるトラブル隠しの問題」が発表されましたが、このことは大きな社会問題に発展するとともに、原子力に対する信頼感を大きく損ねる結果となりました。

このように原子力発電に対する逆風が吹いている中で、環境放射線に関し正確でかつ迅速に測定結果を積み重ねていくとともに、県民に安心感を抱いてもらうため情報を提供することが極めて重要であると考えております。

本年報は、環境放射線に関する調査結果などを中心として取りまとめたものですが、皆様から、この内容について忌憚のない御意見、御教示を頂ければ誠に幸いと思います。

平成15年12月

新潟県放射線監視センター所長

田　邊　廣　和

目 次

I 業務報告編

1 運 営	3
1・1 沿 革	3
1・2 施設・設備の概要	3
1・3 組 織	6
1・4 予算・決算	7
1・5 主要備品	7
1・6 行 事	8
1・7 外部委員会等への参画	10
2 業務概要	11
2・1 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査	11
2・2 巻原子力発電所予定地周辺環境放射線調査	12
2・3 環境放射能水準調査	12
2・4 調査研究業務	12
2・5 その他の業務	14

II 研究報告編

1 研究報告	21
【研究報告】	
1) 新潟県沿岸における海水及び海藻の ¹³⁷ Csと安定Csの濃度分布	21
加藤 健二・丸田 文之・昆 信芳・殿内 重政	
2) 冬季雷活動時に観測される空間線量率の一時的上昇の特徴	29
山崎 興樹・大高 敏裕・藤巻 広司・殿内 重政	
【技術報告】	
1) 巡回監視車による柏崎刈羽周辺地域の環境放射線測定(1)	38
坂上 央存・丸田 文之・藤巻 広司・殿内 重政	
2) キレートディスク前処理/ICP-MSによる海水及び河川水中のウラン及び希土類元素の他元素同時分析法の検討	45
丸田 文之・加藤 健二・殿内 重政	

【技術資料】

1) Ge半導体検出器による雨雪中の放射性核種濃度測定(1)－2003年1月－	50
坂上 央存・丸田 文之・藤巻 広司・殿内 重政	
2 他誌発表	56
3 学会等発表	56

III 資料編

新潟県放射線監視センター 中央監視室 テレメータシステム配置図	61
柏崎刈羽放射線監視センター 中央監視室 テレメータシステム配置図	63
環境試料中の放射能分析（ゲルマニウム半導体検出器）	65